

# 未来医療を実現する医療機器・システム研究開発事業

平成29年度概算要求額 **53.8億円（43.9億円）**

## 事業の内容

### 事業目的・概要

- 高齢化の進展や、新興国における医療需要の増大を受け、世界の医療機器市場は今後も拡大が見込まれています。このような中、文部科学省、厚生労働省と連携し、日本が強みを持つロボット技術や診断技術等を活用した世界最先端の革新的な医療機器・システムの開発・実用化や、開発の指針となる手引き（ガイドライン）の策定を、日本医療研究開発機構を通じて推進します。
- 具体的には、重点分野（手術支援ロボット、人工組織・臓器、低侵襲治療、画像診断、在宅医療）を中心に、取組を強化していきます。さらに、重点分野のうち、国内外の市場が大きく、今後の成長が見込まれ、かつ国内企業が競争力を有する「低侵襲治療」「画像診断」分野について、平成29年度から、重点的に研究開発を進めます。

### 成果目標

- 平成26～30年度の事業については、平成32年度までに、5種類以上の革新的医療機器・システムの実用化を目指します。
- 平成29～33年度の事業については、平成35年度までに、4種類以上の革新的医療機器・システムの実用化を目指します。

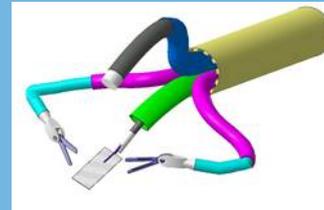
### 条件（対象者、対象行為、補助率等）



## 事業イメージ

### 手術支援ロボット・システム

#### フレキシブル内視鏡手術装置



深部の病変を低侵襲で治療

#### スマート治療室



手術時間短縮により患者負担を軽減

### 人工組織・臓器

#### 機能的生体組織製造技術



細胞を用いて血管・組織を立体造形

### 低侵襲治療

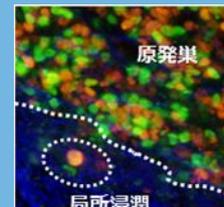
#### 高精度放射線治療装置



正常組織の被曝量を低減

### 画像診断（イメージング）

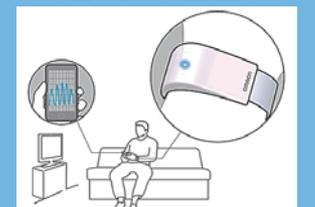
#### 低侵襲がん診断装置



組織を切り取らずに、がん細胞を検出

### 在宅医療機器

#### ウェアラブル血圧計



血圧を連続測定し脳・心疾患を予防